

令和元年6月18日現在

機関番号：32689

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2018

課題番号：17H07167

研究課題名（和文）根本説一切有部律「律事」「雑事」における「経典」の研究

研究課題名（英文）Sutras in the Mulasarvastivada Vinaya

研究代表者

八尾 史 (Yao, Fumi)

早稲田大学・高等研究所・講師（任期付）

研究者番号：30624788

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、失われた古代インド仏教の経典を現存の文献から回復するところみである。その現存文献とは、一千年紀の前半に北インドで成立した「根本説一切有部律」という僧院規則集であり、経典に相当する文章を大量に含むことで知られる。「根本説一切有部律」の現存するサンスクリット語写本、漢訳、チベット語訳を調査した結果、これまで指摘されていなかった経典をあらたに発見するとともに、同文献に経典が取りこまれた編纂・伝承の経緯を示す重要な事例を得ることができた。また近年発見された「根本説一切有部律」の第二のサンスクリット写本の解読により、経典に関わる重要な情報を回収しえた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インド仏教聖典の成立過程についてはいまだ多くのことが不明であるが、本研究により、経典と僧院規則という異なる種類の聖典群の間で、後者に前者を取りこむという形の編集行為がおこなわれたことが確実となった。また新発見の「根本説一切有部律」サンスクリット写本の解読の成果は、今後経典の問題にかぎらず説話や僧院規則といった幅広い分野にわたる研究の資料となる。

仏教は現在アジアを超えて世界に展開しており、それにともなって古い時代の仏教への一般の関心も高い。古代インド仏教についての理解は残された文献の解読とその背景の解明の上書き換えられつつあり、本研究はその一環としてあらたな基礎的情報を提供するものである。

研究成果の概要（英文）：This project is aimed at recovering lost Buddhist sutras, doctrinal scriptures belonging to Buddhist canon, from an extant text called Mulasarvastivada Vinaya, which is a monastic law code compiled in northern India in the early first millennium and is famous for including a huge amount of text corresponding to sutras.

Through the research on the extant versions of the Mulasarvastivada Vinaya preserved in Sanskrit, Tibetan, and Chinese, several sutras have been newly discovered in this text. Moreover, there have been findings that reveal the editorial operation to include sutras in the Mulasarvastivada Vinaya in some stage of its textual transmission. This project also dealt with a newly identified Sanskrit manuscript of the Mulasarvastivada Vinaya, and through reading this material important pieces of information related to sutras have been accumulated.

研究分野：人文学

キーワード：仏教 律蔵 経典 説話 根本説一切有部律 薬事 写本 インド

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

古代インドの仏教聖典は、教義を物語形式で説く文章である 経典 を集めた 経蔵 と、仏教僧院の運営規則や僧尼の生活規則を記した文書の集成である 律蔵、さらに経典の解釈を中心的内容とする文献群 論蔵 の三者からなり、これを三蔵と称する。一千年紀の前半に北インドで成立したとされる仏教文献 根本説一切有部律 は、根本説一切有部とよばれる一派の 律蔵 であるが、これに 経典 に相当する文章が数多く含まれることが従来から知られていた(平川 1960 など)。しかしサンスクリット語、チベット語訳、漢訳で現存する同文献の膨大な量のため、そこに含まれる 経典 について学者の得られた情報は部分的なものにとどまっていた。報告者は博士論文においてこの 根本説一切有部律 の一つの章「薬事」から 40 の経典を抽出し、その後も各章の読解にもとづく経典抽出を進めてきた。

この 根本説一切有部律 という文献については、いまだ全体の正確なエディションも近代語訳も存在しない。サンスクリット写本としてはパキスタンから出土した不完全な写本、いわゆるギルギット写本が長らく唯一のものであり、20 世紀なかばから後半にかけて公刊された先駆的な、しかし問題の多いエディション(Dutt 1942-50, Gnoli 1977-78, 1978)のあと、数章については精密なエディションが作成されている。20 世紀の末にもう一つのサンスクリット写本が同定され(Hartmann and Wille 2014)、報告者はこの写本(以下「新出『薬事』写本」と称する)の研究を進めてきた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、根本説一切有部律 から 経典 に相当する記述を抽出することによって、失われた根本説一切有部の 経蔵 を復元すること、さらにこれらの経典と 根本説一切有部律 の関係を分析することで、経蔵 と 律蔵 の成立過程における相互関係を解明することである。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究では、根本説一切有部律 を構成する四部門「律分別」「律事」「雑事」「ウッタラグラント」のうち「律事」と「雑事」の二部門を主たる研究対象とし、サンスクリット語、チベット語訳、漢訳の三本のテキストを利用した。これらのテキストを対照しながら読解を進め、経典に相当する記述について現存する 経蔵 資料との比較をおこない、またその記述の置かれた文脈を分析した。

(2) 次節の先取りとなるが、本研究遂行過程において、「新出『薬事』写本」が 根本説一切有部律 内の経典という問題に関して重要な情報源となる事例が複数確認された。原典資料にもとづくことは本研究の基本であるが、新出「薬事」写本については資料自体が比較的最近発見されたものであって、現存する他の 根本説一切有部律 資料のあいだにおける位置づけはいまだなされておらず、また未解読の部分も存在した。したがって同写本の解読、他資料との比較は 経典 の問題を扱うためにも必須であり、この作業を経典抽出の作業と組み合わせることで行ふことになった。

### 4. 研究成果

以下、研究成果をおもに 経典 に関わるものと、新出「薬事」写本に関わるものとに大別して報告する。

#### (1) 経典 に関して：

##### (1) - 1 プラセーナジット王に語られる仏の前生譚群 の構造分析

プラセーナジット王に語られる仏の前生譚群 は「律事」第 6 章「薬事」のなかにあり、三十三の説話がブッダの前世の物語として次々に語られる部分であるが、これらの説話に交じって複数の 経典 が含まれている。従来これら個々の説話や経典が研究対象とされたことはあったが、説話群全体としての一見無秩序な配列について考察がこころみられたことはなかった。

本研究はこの説話群がいかにして形成されたのかを解明するため、説話を主題や登場人物によって類別するとともに、サンスクリット、チベット語訳、漢訳の三本の異同を検討した。その結果、三十三の説話は大きく三つのグループに分けられることがあきらかになった。すなわち、第 1 のグループ(第 1~11 話)はいずれも王が富裕な人物を主人公とし、それぞれの物語が冒頭と末尾で提示する主題は「布施」である。ついで第 2 のグループ(第 12~29 話)の主人公はさまざまな人間あるいは動物であって、主題としても布施を含む多様な善行が提示される。第 3 のグループ(第 30~33 話)はすべて人間それも宗教的教師が主人公で、主題は「生き物たちの利益となることをする」ことである。

それぞれのグループには、その編纂過程を示唆する特徴がみられる。第 1 のグループでは、設定された「布施」という主題に合わせるために本来の説話に部分的改変を加えた事例が複数見られる。第 2 のグループは近年あらたに発表されたメルブ出土の五世紀のサンスクリット写本(Karashima and Vorobyova-Desyatovskaya 2015)に含まれる説話集と説話の配列において明白な一致を示す。これは一見、メルブ説話集写本が「薬事」のなんらかのヴァージョンからの抄出であることを想定せしめるが、粹物語の構造や個々の説話の内容のいちじるしい相違からし

てその可能性は低い。さらに、メルブ説話集写本には「律にあるように」という言い回しが複数回用いられるが、それは律蔵の「薬事」以外の箇所にも同じ話が出ている場合にかぎられる。したがって、このフレーズは「薬事」ではない箇所を参照している可能性が高い。これは裏を返せば、メルブ説話集写本が参照している律蔵には今日われわれが根本説一切有部律の「薬事」にみるような 仏の前生譚群 は存在していなかったということである。以上の観察から、「薬事」の 仏の前生譚群 とメルブ説話集写本との説話配列の一致は、前者が後者になんらか関係する素材から配列を借用したことに起因するという假説を立てることができる。第3のグループは、4つの説話がすべて根本説一切有部の 律蔵 もしくは 経蔵 のなかにその平行話をもつ点に特徴があり、それらの説話の配列は、現存する經典に出る人物名のリストと一致する。このグループはそのようなリストを骨格として、律蔵 の編纂者たちが先行するヴァージョンの 律蔵 および 経蔵 から説話を渉獵したことで成ったものと考えられる。この箇所ではチベット語訳、漢訳、新出「薬事」写本が注目すべき相違を示している（ギルギット写本はこの箇所が現存しない）。すなわちチベット語訳は4つの説話の完全形を提示し、新出写本は僅かに主人公の名前を列挙するのみで説話内容を出さず、漢訳にいたっては説話の痕跡すら皆無である。これは 根本説一切有部律 伝承の多様性を示す顕著な事例である。

以上を要するに、この 仏の前生譚群 部分は三種類の異なる編集作業を通じて形成されたものであって、その過程で 經典 およびさまざまな説話が 経蔵 や未知の説話集から収集されて「薬事」の中におさめられたということが出来る。この研究結果を学会発表ののち雑誌論文にまとめた（下記〔雑誌論文〕、〔学会発表〕）。

#### (1) - 2 経蔵 からの借用を示す事例の研究

経蔵 と 律蔵 が同一の記述を共有する場合、どちらがどちらから借用したのかという問題が生ずるが、これにかかわる重要な事例が 根本説一切有部律 中に複数みられる。これらの事例では、經典 に相当する文章の中に一見不可解な省略や矛盾した記述が存在する。まず、「前に説いた通りである」といって教説内容が省略されているのに、その「前」のどこにも該当する記述がなく、意味が通らなくなっている例が2件ある。これは、当該の經典が現存する 経蔵 の漢訳資料の中で置かれている位置を見れば解決する。つまり、経蔵 の中ではたしかにその經典の「前」に、問題の記述が存在するのである。また別の事例では、ある 經典 に相当する説話の末尾で登場人物があきらかに矛盾したふるまいをする。これは、經典 としての定型的な結末が「薬事」の説話の枠組みに合致しないことから生じた齟齬であり、この齟齬を放置した結果のテキストが漢訳に、齟齬を修正した結果のテキストがチベット語訳に残されている。

以上の事例においては、經典 に対応する記述が本来 経蔵 にあったものであり、そこから取り出されて 律蔵 にとりこまれたことが確実である。より端的にいえば、これらの事例では 經典 は 経蔵 から 律蔵 へと動いているのであって、その逆ではない（ただしこの現象を一般化することはできない）。これを学会発表ののち論文にまとめ、論文集に投稿した（〔学会発表〕、〔図書〕）。

(1) - 3 「雑事」漢訳・チベット語訳において、経蔵 の特定のセクションと関わる特異な 經典 対応記述群を発見し、その比定と分析をおこなった。これについては2019年に学会発表を予定している（〔学会発表〕）。

(1) - 4 「律分別」においては従来經典名の言及のみが知られていた箇所について、注釈文献を利用することによりその經典の内容があきらかになった。これについては2019年に学会発表を予定している（〔学会発表〕）。

(1) - 5 上記以外にも「律事」からの經典抽出を進めた。これらの經典のリストを発表に向けて準備中である。

#### (2) 新出「薬事」写本に関して：

##### (2) - 1 現存諸本との比較：字句レベル

新出「薬事」写本と従来 根本説一切有部律 の唯一のサンスクリット写本として知られてきたギルギット写本とを詳細に比較した結果、新出写本はギルギット写本にみられる誤写の修正に資する多くの読みを保存することが判明した。さらに、ギルギット写本に対するその他三本（漢訳、チベット語訳、新出写本）の一致という傾向があきらかになった。すなわち、新出写本は漢訳とチベット語訳の資料的価値を再評価する上でも、重要な意義をもつものであるといえる。この成果を学会発表ののち雑誌論文として出版した（〔雑誌論文〕、〔学会発表〕）。

##### (2) - 2 現存諸本との比較：説話構造レベル

新出「薬事」写本と他の現存 根本説一切有部律 資料（ギルギット写本、チベット語訳、漢訳）とを説話構造レベルで比較するならば、例外はありつつも、チベット語訳と相違して新

出写本と漢訳が一致するというおおよその傾向を指摘することができる。新出写本は、チベット語訳と漢訳の相違がそれらの依拠したところのサンスクリット語原典の相違に起因することを強く示唆する。すなわち、現存諸本の伝承過程における位置関係は決して単純なものではなく、それらの背後に失われた無数の根本説一切有部律写本の存在を想定しなければならないことが、新出写本の登場によって明白になったといえるのである。

このほか、新出写本には写本としての構成の上でもきわだった特徴がある。同写本は冒頭部分が行われていたが、フォリオ番号をもとに計算すると、ギルギット写本のように「律事」というセクションの第1章から始まるのではなく、第6章「薬事」から始まっていたことが高いのである。さらに、この写本では「薬事」の直後に「ウッタラグラータ」というセクションの第2章「ヴィニータカ」が始まっている。この不可解な配列の原因は、現時点では不明とせざるをえない。以上の観察をふまえ、新出写本についての概括的な報告（2018年春の段階で解読可能であった239断片すべてを翻刻した結果）を学会で発表した（〔雑誌論文〕、〔学会発表〕）。

(2) - 3 新出写本の一部に関しては2018年夏になってさらなる解読の可能性が開けた。同写本は零細な断片群であって、断片の束は現在3つに分かれ、それぞれアメリカ合衆国の個人蒐集家、ノルウェーの個人蒐集家、パキスタン政府の所有となっているが、このうちノルウェーの断片についてはこれまで若干の写真が得られていたが、さらに調査を進めることが可能となったのである。このためノルウェー、スウェーデン、ドイツ、日本の研究者と共同研究を計画し、2019年2月にノルウェー文献学研究所において写本の現況を調査し、写真撮影、スキャン作成等を行った。これにより、従来ギルギット写本の欠損のためサンスクリット原文が知られなかった箇所に対応するかなりの量の原文を得ることができた。このようにして得られたテキストには、経典に関わる貴重な記述も含まれていた。写本の調査は今後も継続し、断片目録と翻訳をすみやかに発表する予定である（〔図書〕）。

#### <引用文献>

- 平川 彰. [1960] 1999–2000. 『律蔵の研究』. 2 巻. 東京: 春秋社.
- Dutt, Nalinaksha. [1942–50] 1984. *Gilgit Manuscripts*, vol. 3 in 4 parts. Delhi: Sri Satguru Publications.
- Gnoli, Raniero. 1977–78. *The Gilgit Manuscript of the Saṅghabhedavastu: Being the 17th and Last Section of the Vinaya of the Mūlasarvāstivādin*. 2 vols. Serie Orientale Roma 49(1–2). Roma: Istituto Italiano per il Medio ed Estremo Oriente.
- . 1978. *The Gilgit Manuscript of the Śayanāsanavastu and the Adhikaraṇavastu: Being the 15th and 16th Sections of the Vinaya of the Mūlasarvāstivādin*. Serie Orientale Roma 50. Roma: Istituto Italiano per il Medio ed Estremo Oriente.
- Hartmann, Jens-Uwe, and Klaus Wille. 2014. “The Manuscript of the *Dīrghāgama* and the Private Collection in Virginia.” In Paul Harrison and Jens-Uwe Hartmann ed., *From Birch Bark to Digital Data: Recent Advances in Buddhist Manuscript Research. Papers Presented at the Conference Indic Buddhist Manuscripts: The State of the Field, Stanford, June 15–19 2009*, Vienna: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 2014:137–155.
- Karashima, Seishi, and Margarita I. Vorobyova-Desyatovskaya. 2015. “The Avadāna Anthology from Merv, Turkmenistan.” *Buddhist Manuscripts from Central Asia: The St. Petersburg Sanskrit Fragments (StPSF)*, vol. 1, 145–523. Tokyo: The Institute of Oriental Manuscripts of the Russian Academy of Sciences and the International Research Institute for Advanced Buddhism, Soka University.

#### 5 . 主な発表論文等

##### 〔雑誌論文〕(計4件)

Fumi Yao, “The Formation of the Buddha’s Former Life Stories in the *Bhaiṣajyavastu* of the *Mūlasarvāstivāda Vinaya*.” *Journal of the International Association of Buddhist Studies* 42. 2019. (査読中)

Fumi Yao, “Problems of the Newly Identified Sanskrit Manuscript of the *Bhaiṣajyavastu*.” *BDRC Occasional Papers in Buddhist Studies* 1. 2019. (査読中)

八尾 史 「根本説一切有部律薬事の新出写本—現存状況、構成の問題、ギルギット写本との関係」『佛教學』60, 2019, pp. 1–19. (査読有)

Fumi Yao, “Two Sanskrit Manuscripts of the *Mulasarvastivadin Baisajyavastu* from Gilgit.” *WIAS Research Bulletin* 10, 2018, pp. 91–102. (査読有)

〔学会発表〕(計 6 件)

Fumi Yao, “Talking Wittily with an Ill-Behaved Monk: On a Reference to the *Jetavanāsūtra*\* in the *Mūlasarvāstivāda Vinaya*,” the Second International Conference on Buddhism and Law, Buffalo Law School SUNY, New York, September 27th–29th, 2019. (招待、発表決定)

八尾 史, 「根本説一切有部律にもとづく阿含經典の復元」, 日本印度学仏教学会第 70 回 学術大会パネル発表「説一切有部研究の可能性を考える」, 2019 年 9 月 8 日, 佛教大学(発表決定)

Fumi Yao, “Traces of Incorporation: Some Examples of the *Samyuktāgama Sūtras* in the *Mūlasarvāstivāda Vinaya*,” IVth Seminar of the Āgama Research Group, Buenos Aires, October 27th, 2018. (招待)

八尾 史, 「根本説一切有部律薬事の新出写本：現存状況、構成の問題、ギルギット写本との関係」, 仏教思想学会第 34 回学術大会, 2018 年 7 月 7 日, 創価大学

Fumi Yao, “The *Mahāgovindasūtra* and Mahāgovinda’s stories: with the focus on a version in the *Mūlasarvāstivāda Vinaya*,” 18th Congress of the International Association of Buddhist Studies, University of Toronto, Toronto, August 22nd, 2017

Fumi Yao, “The Newly Identified *Bhaiṣajyavastu* Manuscript and the Gilgit Manuscript,” AAS-in-ASIA (Association for Asian Studies), Korea University, Seoul, June 25th, 2017

〔図書〕(計 1 件)

Fumi Yao, “Traces of Incorporation: Some Examples of the *Samyuktāgama Sūtras* in the *Mūlasarvāstivāda Vinaya*.” *Research on the Samyuktāgama*. Ed. Dhammadinnā. Dharma Drum Publishing Corporation. 2019. (査読有、掲載予定)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。